

## 生涯学習センターの動向

高頭 麻子

生涯学習センターは、学内外との連携を図りつつ、在学生・卒業生・一般市民の方々の生涯学習活動を推進するため、公開講座事業・リカレント教育事業・相談事業・施設提供を行っている。2011年度は東日本大震災のため、公開講座・リカレント教育課程・心理相談の日時変更や一部中止、受講生減少などの影響があったほか、節電のため事務室の閉室や西生田施設提供の一部制限など、多くの対処を余儀なくされたが、課員一同の創意工夫を結集して今後の発展に向け努力した。以下に主要な2つの事業について記述する。

### <生涯学習センター公開講座>

目白キャンパスでの2011年度開設講座数は83、総受講者数2,366名、総延人数31,999名、西生田キャンパスでは、開設講座数73、総受講者数1,735名、総延人数17,220名であった。

特別講演会としては、前期(6月)に上野千鶴子氏「ポスト家族の時代—おひとりさまを生きるために」、後期(12月)に中島京子氏「物書きの仕事—小説家になるまでと、小説家になってから。」を開催した。多くの参加があり、ライブ中継した札幌・福岡のサテライトの受講者も含め、活発な質問がなされた。

キャリア支援講座では、「総合・国内旅行業務取扱管理者対策講座(文学部共催)」「保育士資格筆記試験対策講座(児童学科共催)」など、学部学科共催の講座にも力を入れている。授業の空き時間を活用し年間100レッスンを受ける「毎日学ぶ課外英会話講座」は250名の在校生が受講し好評を得た。

西生田キャンパスでは、地域性を生かして「西生田キャンパスの森を歩く」、「親子で遊ぶ手づくりおもちゃ」など、小学生親子向けの無料講座や、「行政職員・市民のための生涯学習入門」、「学校支援はオトナのブカツ！」などの無料講座を地域に提供した。

また、「文京アカデミア講座」3講座の開講、人材育成講座「文の京地域文化インタープリター」の一環として文学研究科寄附授業「文化財資料論研究」、「文化財資料論演習」への区民の受入れ、永村眞教授企画の文京アカデミー特別公開講座「真言密教と声明～醍醐寺の声明を聴く」など文京区との連携や、川崎市民への前期7講座、後期3講座の無料提供のほか、社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会や婦人国際平和自由連盟日本支部(WILPF)など学園関係機関との連携講座を開講し、学内外の連携を深めている。

### <リカレント教育課程>

震災のため、前期授業期間を学部同様4月18日～7月23日に変更した。震災や原発の影響は、本課程対象者に対して、物理的にも心理的にも、また再就職にも、大きな影を落としている。年間の入学者28名、修了者は35名で、前後期とも入学者が少なかった。それでも、2011年9月修了者まで、就職希望者の就職率はほぼ100%（非常勤を含む）を維持している。

事業開始から5年目となったので、今日の社会状況とも照らし合わせて、全体的な見直しを行った。科目担当講師の懇談会を開いて、より有機的なカリキュラム編成のため、さまざまな助言をいただいた。そのご意見は2012年度のカリキュラムにも反映されており、今後も、時代状況や受講生の要請にしたがい、改良を続けるつもりである。

8月と3月に本課程独自の合同会社説明会を開催しているほか、毎年幾つかの再就職支援イベントを開いているが、2011年度5月には「女性の再就職と今後の日本社会－大震災後の変化を踏まえて」シンポジウム、12月には在日米国商工会議所と共催のイベント「ソフトランディング・タスクフォース」を本学で開催した。11月には初めての試みとして、5名の修了生に経験談を話してもらい、現役生との懇話会を開き、大変好評だった。

本課程は、文部科学省やメディアから大きな注目を受けており、文科省中央教育審議会のキャリア教育・職業教育特別部会の「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）に事例として記載されたほか、読売新聞（5月）、BS朝日「鳥越俊太郎対談の時間」（7月）、NHK教育テレビ（Eテレ）「資格☆はばたく」（8月）、NHK総合テレビ「首都圏ネットワーク」（8月）、日本経済新聞（2月）、日経産業新聞（2月）でも取り上げられた。10月には、独立行政法人国立女性教育会館における「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」で、ワークショップ「女性の再就職をめぐって－その障碍と解決策を探る」を開催し、他府県からの参加者と情報交換した。

このように、本課程では、①新卒者にはない働く自覚と自信を備えた即戦力を養うためのカリキュラム（英語、ITリテラシー、キャリア・マネジメントを核とし、多様な職種の基本知識・技術と柔軟な対応力）と、②在校生・修了生一人一人へのきめ細かな就職支援に加えて、③講師・在校生・修了生・課程スタッフ・理解ある企業や日米の商工会議所・本課程を応援して下さる諸機関とのネット・ワーキングという3つの回路を通して、女性の潜在能力を開花させ、充実したキャリア生活を実現させたい、と考えている。

（たかとう まこ 文学部史学科教授・生涯学習センター所長）